

システムを開発した吉沢さん。
画面には番号が表示される



松本秀峰中等教育学校(松本市)4年生(高校1年)の吉沢源太さん(16)は、飲食物を調理・販売する「模擬店」の運営に役立つシステムを開発した。会計、受注、在庫確認、売り上げの分析を一括して行える。12日と13日に開かれた同校の文化祭「秀峰祭」で導入され、円滑な模擬店運営に貢献した。
(牧野 蒼)

模擬店運営システム開発

秀峰4年・吉沢源太さん

模擬店会場のスクリーンで待ち時間を把握できる
(左が吉沢さん)



文化祭で導入 「便利」と好評

購入時に商品のQRコードをパソコンに読み込むと自動で合計金額が表示される。同時に調理場に必要個数が表示され調理が始まる。購入者は模擬店会場のスクリーンや、スマートフォンなどで表示できる専用サイトから、自分の前に何個の未完成の商品があるか、待ち時間はどれくらいかが分かる。調理が完了すると「受け渡し可」と表示される。
売り上げを表計算ソフト「エクセル」上で計算できる形で出力できる集計機能は、学校ホームページと連動してリアルタイムの在庫状況を確認できる。
吉沢さんは小学生の頃から独学でプログラミングを学んでいる。生徒会活動を安定・継続的に進めるための有志団体「SKETTS」(スケッツ)エンジニア班に所属。昨年の文化祭で会計ミスなど人為的なミスが目立ったことから、人間の判断を減らし、作業工

程を簡略化することで改善できないかと、ゼロからプログラミングして開発、運用につなげた。
運用にあたっては50人超のマニュアルを作成、説明会を開いた。同エンジニア班に所属する5年生(高校2年)の高橋大雅さん(17)は、利用者と模擬店に関わった生徒から「使いやすいかった」「便利」という好感触の声を聞けたとし「もう手を挙げて喜んで」と振り返る。吉沢さんは「システム内のエラーはなく、飲食店として調理に集中できていた」と手応えを感じている。